

8月定例教育委員会会議録

- 1 日程 令和6年8月29日(木)
- 2 場所 藤井寺市役所 3階 会議室305
- 3 案件
 - 日程第1 会議録署名委員の指定について
 - 日程第2 前回教育委員会会議録の承認について
 - 日程第3 教育長の報告について
 - 日程第4 報告第18号 教育委員会の後援名義等使用について
・・・資料2(教育総務課)
 - 日程第5 その他報告事項
令和6年度全国学力・学習状況調査(調査結果概要)について
・・・資料1(学校教育課)
- 4 出席委員

教育長	見浪 陽一
教育委員(教育長職務代理者)	足立 義幸
教育委員	富山 昌克
教育委員	原 明子
教育委員	永井 由美子
- 5 教育部出席者

教育部長兼次長	大山 哲也
教育監	寺田 剛
教育総務課長	中村 真也
生涯学習課長	杉多 克一
学校教育課長	岸 廣幸
文化財保護課長	新開 義夫
スポーツ振興課長	八木 淳一
図書館長	國頭 順子
- 6 欠席
- 7 書記 教育総務課主幹 田名出 隆行
- 8 傍聴者 0人

午後4時00分 委員会開会を宣して日程に入る。

○中村教育総務課長

みなさま、こんにちは。令和6年8月の定例教育委員会会議の開会に先立ちまして、事務局より、本日の傍聴者の報告をさせていただきますが、傍聴希望者を募集しましたが、本日は希望者がおられませんでした。

また、教育長及び教育委員の過半数が出席しておりますので、地方教育行政の組

織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、本日の会議が成立することを報告いたします。

なお、本日の案件に訂正がございます。当初は報告案件2件としておりましたが、正しくは報告案件1件、その他報告1件となります。その関係で、資料番号が前後しておりますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

内容といたしましては、当初、報告第18号 令和6年度全国学力・学習状況調査（調査結果概要）としておりました案件につきましては、承認が必要な案件ではないため、その他報告として訂正させていただきました。

また、過去の会議でも報告案件としておりましたが、そちらもこの場をお借りしまして、お詫びして訂正させていただきます。

それでは、教育長お願いいたします。

○見浪教育長

それでは、8月定例教育委員会会議を始めます。

はじめに、本日の会議録の署名委員ですが、永井委員よろしくお願いいたします。

続きまして、前回令和6年7月22日の定例教育委員会会議録及び7月30日の臨時教育委員会会議録につきまして、ご承認いただけますでしょうか。

○委員

「全員挙手」

○見浪教育長

ありがとうございます。では、承認ということで、よろしくお願いいたします。

次に、教育長報告を行います。

まず、8月8日に大阪府議会を構成する各会派の府議団、大阪維新の会、公明党、自由民主党に対しまして、令和7年度の大阪府予算に対する要望を行いましたのでご報告いたします。

これは市長をトップとし、副市長、私も含めて、各部長も入って府議団に対して要望するという形になっております。中身としては、教育委員会の関連でいうと3点ございます。

一点目は、2025年日本国際博覧会の「児童・生徒招待事業」に係る項目で、安全安心な移動手段ということでのバスの手配や、会場での休憩場、パビリオン見学予約の方法といったことについて要望させていただきました。

それから二点目として、不登校支援体制の拡充や、35人学級の編制の実現、教職員の働き方改革に関する人材の配置ということについて要望させていただきました。

三点目は世界遺産について、世界遺産の指定地には、民間の土地もありますので、市が買い上げるということとなりますとかなり財政的な負担が大きいところですが、元々8割が国で、残り2割を市と府が1割ずつ負担するかたちとなっておりますところ、これが平成10年ぐらいから府の負担がなくなり市が2割を負担するようになっておりますので、府の負担分の復活をお願いしたいということを要望させていただきました。

万博につきましては、この間メディアでも取り上げられていますけども、専用列

車や優先列車といったところや休憩所といったところで一定進捗はしているのですが、要望している部分については協議中ということもありますので、引き続き要望していきたいと考えております。

それから、人やお金の問題でなかなか難しい部分がありますが、粘り強く要望はしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

それから二つ目の報告といたしまして、8月16日に大阪府都市教育長協議会の8月定例会が開催されました。そこで、最近新聞でも結構出ていたと思いますが、大阪府教育庁より大阪府学校教育審議会の答申というものがございまして、その中で「府立高校改革の具体的な方向性とそれを踏まえた入学者選抜のあり方について」の報告がありました。入学者選抜のあり方に係る主な内容ということで、「高校の特色や魅力に適う選抜」として、募集定員の一定割合について、具体的に求める生徒像に極めて合致する生徒を優先的に合格とするということが一つ提言としてありました。

もう一つは、「高校生活充実のための選抜日程」ということで、今は卒業式の後に合格発表があるため、中学生が卒業してから高校入学までの期間が短く、なかなか高校側としても十分なアセスメントができないということで、うまく馴染めるようにもう少しその期間をとるため入学者選抜の実施を少し前倒しする、例えば、特別選抜・一般選抜を一本化するということが一つ提言としてありました。

さらには、「複数の受験機会の確保」ということで、複数の受験機会を確保できる選抜制度を検討するという、大きく三つぐらいの提言があったということでございます。今後この内容については具体的な提言を受けて、実際の選抜をどうしていくかということについて、府の教育庁で方針を決定していくという形になります。

あと、府教育庁教育総務企画課より、先ほどの要望の中でもありましたけども、「大阪・関西万博 日帰り教育旅行の輸送に関する検討会」報告というものがございまして、そこで専用列車であるとか優先列車であるとかといった報告がありました。

教育長報告については以上でございます。

それでは、会議次第に従いまして議事に入ります。本日は議案がなく、報告事項が1件、その他報告が1件でございます。

報告事項につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条第1項及び藤井寺市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条第1項の規定により、教育長として専決しておりますので報告させていただきます。

それではまず、報告第18号 教育委員会の後援名義等使用について、教育総務課長、説明願います。

○中村教育総務課長

報告第18号 教育委員会の後援名義等使用について、説明させていただきます。資料2をご覧ください。

今回の報告につきましては、令和6年7月分の使用承認で専決処理をしたものでございます。内容につきましては、資料2の表の5件でございます。

以上、藤井寺市教育委員会後援名義等使用承認事務取扱要綱第3条第2項に基づき報告させていただきます。以上です。

○見浪教育長

ありがとうございました。ただ今の件について、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。よろしいですか。それでは報告第18号 教育委員会の後援名義等使用について、承認してよろしいでしょうか。

○委員

「全員挙手」

○見浪教育長

それでは、報告第18号 教育委員会の後援名義等使用について、承認ということにさせていただきます。

続きまして、その他報告 令和6年度全国学力・学習状況調査(調査結果概要)について、学校教育課長、説明願います。

○岸学校教育課長

その他報告事項といたしまして、令和6年度全国学力・学習状況調査(調査結果概要)について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。なお、今回お示ししている資料は、9月2日付で市ホームページに掲載する予定の資料になります。小学校がグリーンの資料、中学校がブルーの資料になっており、左側が「教科に関する調査」について、右側が「生活習慣や学習環境等に関する調査」いわゆる「児童生徒質問紙調査」についての概要となります。なお、今年度より正答率に加えて、正答数を記載した形に変更しております。

まず小学校、中学校のそれぞれ左のページに着目していただきたいのですが、小学校の全体的な傾向として、国語、算数ともに平均正答率は、全国平均・府平均を下回っています。対全国の割合比較での変容を見ると国語、算数ともに改善傾向にあり、全国水準に近づいています。また、記述式問題の正答率だけみると、改善傾向であった国語の記述式問題の平均正答率に課題が見られました。

次に、中学校の全体的な傾向として、国語、数学の平均正答率は、全国平均・府平均を下回っております。対全国の割合比較での変容を見ると国語、数学ともに課題が見られた。令和3年度の小学校6年生から今年度の中学校3年生の同一集団での変容を見ると、国語については、全国との差が縮まりましたが、数学については差が広がりました。

資料にある結果概要は、市全体としての傾向であり、全国・府・市の傾向と比較し、各校にどのような特徴、強みがあるのかをしっかりと分析するよう、昨日8月28日の校長会議でも伝えております。また、明日8月30日実施の教頭会議と学力向上推進委員会においても、全体の傾向の共有とともに、分析のポイントを示して伝える予定です。

また、9月下旬より、学力に関する訪問ヒアリングを開始し、各校の分析をもとに、対象学年に今後卒業までにどのような力をつけていくのか、学校全体でそういった取組を進めていくのかを共有・協議していきます。

続いて、それぞれ右ページの児童・生徒質問紙調査について、まず「自己肯定感」に関して小学校では、「自分には、よいところがあると思いますか」の強い肯定的な回答が全国を大きく上回っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する強い肯定的な回答は全国を上回り、かつ昨年度

から大きく増加しました。中学校においては、全国は上回らないものの昨年度から大きく増加し、ほぼ全国水準となりました。各校での、子どもの自己肯定感を高める特色ある取組の成果が見られます。

次に、「ICTの活用」については、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が全国を上回りました。中学校については、これまで生徒の割合が全国を大きく上回っていましたが、全国をわずかに下回り、同水準となりました。ただ、週3回以上を含めると、活用率は全国を大きく上回っています。今年度は藤井寺西小学校が府のスマートスクール実現モデル校に指定されていますので、授業での積極的活用から効果的な活用への転換に向けてICT支援チームやGIGAスクール連絡会と連携し、取組を進めてまいります。

一方で、小中学校ともに継続して課題としている「平日に家庭学習を全くしない」割合や、ゲームを1日4時間以上する割合が全国を大きく上回っています。概要では取り上げていませんが、ゲームを4時間以上する子どもは、スマートフォンでのSNSや動画視聴時間も長い傾向にあります。

また、小学校では改善傾向であった朝食の喫食率が低下したこと、中学校では低下し続けていることも心配される案件になります。この課題解決に向けては、家庭の協力が不可欠であると考えており、引き続き学校と家庭の協力のもと、家庭学習の習慣化など、主体的に学べる取組の工夫が必要であると捉えています。

最後に、授業改善に関わって、本市の学力向上の課題・指標としている「主体的に学ぶ力」については、小学校では昨年度より大きく向上し、全国を上回りましたが、中学校では減少しました。「アウトプットする力」については、小学校では引き続き全国を上回っており、中学校でも全国を上回りました。関連して、総合的な学習の時間における「探究的な学び」にかかる項目の肯定的な回答が小中学校ともに増加傾向にあり、全国との差も縮まっています。

「子ども主体の学びへの転換」が今年度目標に掲げている学力向上プランの内容になるのですが、誰もが大切にされる集団づくりをもとに、子どもが主体的に学ぶ姿、他者と協働して学び合う姿、未来に向けて学び続ける姿をめざして、学校とともに取り組んでまいります。以上です。

○見浪教育長

ありがとうございました。ただ今の件について、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。

○富山委員

自己肯定感が本当に上がっているのので、できたらこのグラフを大きく載せるべきだと思います。それが、子どもたちだけではなく、多くの関係者に対しても自己肯定感を増やすことができる第一歩ではないのかなと思います。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○永井委員

残念ながら朝食の喫食率が低いという結果が出ていますけれども、ただ単に朝ご飯を食べないのではなくて、おそらく睡眠が取れていなくて、結局朝寝坊して

しまつて食べられないというような負の循環もあると思うので、できればその睡眠の大切さについても一緒に学んでいただいて、喫食率を上げていくというようなことができればいいのではと思うのですが、その点はいかがでしょう？

○岸学校教育課長

委員のおっしゃる通りかなと思っております。実は昨年度になりますが、令和6年1月に子どもたちに支給しているタブレットパソコンについて、それまでは無制限、要するに夜の何時であってもインターネットに繋がるような状況だったのですが、管理している会社と調整の上、小学校で夜10時、中学校では夜11時にはネット回線に繋げないような状況にさせてはいただいております。

それでも今年度にこのような結果が出ているので、支給しているタブレットだけではなく、やはり個人で持っているタブレットやスマートフォンを使っていたり、おそらく家庭でのルールもできてない結果、寝ることが遅くなって、朝食が取れないという悪循環に陥っているのではという可能性もあると考えております。

また、養護教諭部会という会を実施しておりまして、そこで養護教諭からもそういった話はずっと出てきておりまして、何とか保護者に向けて何か提案できないかということも事前にこの結果を受けて相談も受けていますので、何とか保護者の方々にアナウンスをしていくような形を考えていきたいと思っております。実際、個人懇談面談の場で、こういう課題があるので家庭でもこういう取組をよろしく願いますといったことを担任の先生から伝えてもらうような取組を始めた学校もありますので、少しずつにはなりますが進めていけるような形にしたいなというように思っております。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○原委員

左ページのグラフには、全国と藤井寺市と大阪府の平均が記載されていますが、右ページのグラフには大阪府の平均が載っていない理由は何かあるのですか。

○岸学校教育課長

右ページのグラフが小さく見にくいので、敢えて抜いてありまして、府の平均については項目にもよりますが、例えば家庭学習の項目で言いますと、藤井寺市と全国の間ぐらいの数値となっております。府の平均と比べましても藤井寺市は数値が高く、しんどい部分があると考えております。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○足立委員

左ページで言いますと、藤井寺市だけを見れば、上がったたり下がったりというところはあるようですが、基本的に大阪府や全国の平均より低いということに変わりはないと感じていまして、おそらくこのことはずっと続いている状況ではないのか

なと思っています。少し厳しい言い方になってしまって大変申し訳ないのですが、きちんとした問題把握ができているのか、その結果に伴う分析ができているのかどうかというようなところが、もしかすると不十分な部分があるのではないのかなという気がしています。

数値に対してどうこう分析するだけではなく、漠然とした言い方になってしましますが、分析する人のスキルアップといいますか、見識の深さといいますか、その辺りもやはり高めていかないと、おそらくずっとこういう大阪府よりも単年度では良くなるけども全国より低いというような状況は変わらない気がしています。

決して学力だけが評価ではないとは私自身も思っていますが、こういうふうに数値であったり、わかりやすいグラフになったりという状況に直面しますとどうしてもそれが目についてしまうので、私自身ももう少し工夫したり、問題が解決できるように探らないといけないなと思いました。

○岸学校教育課長

本当におっしゃる通りだと思っているのですが、実は明日行われる学力向上推進委員会でこの内容を取り扱う予定をしております。全体の内容やそれぞれの学校の特徴ということをお話させていただくのですが、その後グループワークを企画しており、分析を行います。ある学校の例を取り上げて、その中から見えてくる課題とは何なのだろうかということをお先生方に考えていただく機会を取ろうと思っています。

分析の仕方に問題がありますと、その分析に対するアプローチが次にあると思うのですが、そのアプローチがずれることに繋がってしまうと考えておりますので、教育委員会としましても細かく分析をさせていただいて、それぞれの学校に対してヒアリングを行います。やはり各校の分析というところの精度を上げないといけないというのは本当に感じておるところでして、一応そのような企画も明日是非やってみたいと思っていますし、その場で学力担当が集まりますので、そこで分析の仕方をきちんと整理したいと考えていることが、まず一点あります。

あともう一点は、本当にそれぞれの学校でその年によって全く課題が異なることもありまして、全国よりも遥かに高いという問題もあるけれども、全体で見たら低いというところもありますので、個別の各学校に対する分析を行い、特に今回は小学校6年生と中学校3年生が対象になってくるのですが、その子たちにどういう手立てが今後必要になってくるのかということをお卒業までに対応していったらいいと思っていますし、学年の担当だけではなくて、学校として対象学年の課題を学校全体で共有しましょうという形で、ぜひ繋げていきたいと思っています。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○富山委員

これは平均なので学校ごとで比べようがないのですが、この前私も見学させていただいた英語の授業がすばらしく、そのような授業をされる先生がいらっしゃるのだったら、いかに他の学校にも同じように意識共有がされているのかというところで、私は具体的に頑張ろうと思えば頑張れると思うんですね。塾とか、私立は既

にされていると思うので、公立の先生であっても同じ意識を持てば、私は少しずつでもいいから上げられることができるのかなと思います。

それに、自己肯定感が上がっているのだから、私は先生方を褒めてあげたいです。すごく頑張っておられるのだろうなと思いますし、だからあまり否定的な捉え方ではなくて、これだけ自己肯定感を上げられたのだから本当に先生方すごいよねという思いもありつつ、次、1点でも上げるにはどうしたらいいのかということを考えていってほしいと思います。

○岸学校教育課長

自己肯定感が上がったのは、ポジティブ行動支援というものについて、大学の先生にも何年も来ていただいて進めるようになって、それぞれの学校の取組が共有できるようになったということが、やっとこの数年で花が咲いてきたかなと思っておりますのでこれを是非継続していきたいなと思っております。

また、それぞれの学校で指導教諭として任用されている先生方には、またこの2学期に3名の方にモデルで授業をしてもらう予定をしておりますので、是非授業を録画してオンデマンドでいつでも他の先生方に見られるような形を作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○足立委員

右ページの「児童生徒質問紙調査」の項目の中に、読書の時間に関する項目はないのですか。

○岸学校教育課長

昨年度まではあったのですが、今年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査からは抜けてしまいました。しかし、別で市としてこの項目はずっと追いかけている内容なのでアンケートもずっととらせてもらっていて、学期末にそのアンケート結果を拾い上げています。市のアンケート結果を集約してみますと、やはり継続して不読率が高いという結果が出ています。

○足立委員

最近読んだ本の中で、読書の時間といわゆるスクリーンタイム、スマートフォンやパソコンを見る時間というものについて、どちらかが増えるかどちらかが減るという相関関係があるということが書いてありまして、藤井寺市のスクリーンタイムというものが高いレベルで横ばいになってしまっていると思うのですが、だからこそ読書の時間がどうなっているのかということが気になりますし、その本の受け売りになってしまいましたが、読書を重ねていくことによって読解力が高くなって、国語や数学の問題を読み解く力にも関連するというようなことも書いてありましたので、質問紙調査のゲームに関するだけでなく、市独自で読書に関する調査をしていただけているというお話がありましたが、並行して分析に繋げていっていただければいいなと思いました。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○富山委員

このゲーム時間というものが具体的に何をしている時間なのだろうかと思います。ネットで何か調べものをしたり、勉強方法を配信している YouTube などもありますし、必ずしもゲーム時間が長いから悪いとも言にくいような時代ではないのかなと思っているのですが、どうなのでしょう。

○岸学校教育課長

実はゲーム時間以外に SNS 等や動画視聴という項目もありまして、そちらも 4 時間という非常に高い数値になっています。

また、クロス集計という指標で学力との相関関係を見ているのですが、4 時間まで視聴になりますと、やはり勉強はすごくしんどくなります。しかし、2 時間ぐらいの視聴だと学力は高くなり、逆に全く見ませんという子は低くなってしまったりしています。そういう分析については、学校にはもちろんフォローしていますし、学校としてどういうことを保護者に発信していくべきなんだろうということを考えてもらうような場は作っていこうとは思っておりますし、校長会や教頭会でもお話をさせていただこうと思っております。

○見浪教育長

学力向上推進事業や市教委の取組とこの結果との関係は、どのように評価されていますか。

○岸学校教育課長

昨年度から小学校において、市の単費で専科指導という形で先生を任用させてもらっていますが、実際今回その先生に入っていた小学校は、やはり学力が上がっています。特に算数ですけれども、やはりどの学校もそういった専門性の高い先生が指導した学年の子たちの学力が上がったということが一定わかってきましたので、これからも進めていきたいと考えております。これは小学校の例なんですけれども、中学校の場合はもう既に専科されている部分がありますので別の話になるかなと思うのですが、少なくとも小学校はすごく今回成果が出たと思っております。

○富山委員

その授業を録画したり配信したりして、間接的に見られるようにすればいいのではないのですか。

○岸学校教育課長

難しいところですが、例えばオンライン等で見たときというのは自分からアウトプットがほとんどなくて、一方的に垂れ流すような形になってしまいますので、そのときの定着率と、子どもたちの中でいろいろ話し合いをして、先生がそれらの話を聞いてフィードバックをしたりといった授業をしたときの定着率はその 3 倍 4 倍という結果も出ておりますので、どういう形でやっていくことがいいのかというこ

とは今後研究をしていかないといけないと思っております。

○見浪教育長

なかなかこの資料が出てしまうと、どうしてもマクロの部分ばかりに目がいってしまうのですが、やはり個々の子どもたちのいわゆる集合体がこの結果なので、ミクロの部分というところをしっかりと見ていく必要もありますし、最近よく言われる個別最適な学びをどう実現していくかについて、ICT等を活用しながら考えていく必要があると感じておるところでございます。

他に何かご質問等ございますか。

○永井委員

やはり家庭での学習をしない児童生徒の割合が高いということでしたが、これはどうやったらいいのかが分かっていないのではということが一つあるのではないかと感じています。学びをどういうふうにすればいいのかということを学校で教えるとか、あとは大学生とかの力を借りて学校ボランティアとして教えてもらうといった形もありますし、やはり改善策を考えなければいけないと思うのですが、いかがでしょうか。

○岸学校教育課長

非常に難しい問題ですが、これはいろいろ既に取り組ませていただいております、特に中学生になると例えばテスト前には勉強をするモチベーションが上がってきますので、そこで実は大学生の方に来ていただいて放課後学習会をさせてもらったりしているのですが、やはりなかなか数値には出てこないということが正直言うとあります。

また、今回モデル校に当たっている学校が一部小学校であるのですが、そこで家庭学習ノートみたいな形でいろいろ取り組んだ部分は、家庭学習で若干改善されたということは実際ありまして、そういった話をそれぞれの学校でもやってみたらどうでしょうかといった形で発表していただいて、小学校で広げていく一つのきっかけにしたいなと思っていますし、やはりそのいい取組をしているところに見に行っていていただく形は取らせてもらっていますので、是非そういった取組のいいところを進めていくことは今後も行っていきたいなと思っております。

○見浪教育長

加配を使ってモデル校としてやっている小中学校があって、授業をどう家庭学習に繋げていくかということを課題として取り組んでいるんですね。

○岸学校教育課長

その学校の例で言いますと、モデル校を3年程続けていた中で、今回はずっと主として働いておられた先生にフリーで動ける先生として全ての教室に入っていけるような配置をしたのですが、それが非常にうまくいきまして、実際それを子どもたちにどう還元していくのかというところで、その先生が他の先生に対してサポートをしてもらうことで家庭学習の方にも繋がったということがあったので、これは非常に良いモデルであると思っています。

○見浪教育長

ありがとうございました。ただ今の件について、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは全体を通じまして、何かご質問等ございますか。よろしいですか。ありがとうございます。

本日予定しておりました案件は、全て終了しました。それでは、以上をもちまして、8月定例教育委員会議を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

会議事項が終了したので、閉会を宣する。

午後4時40分